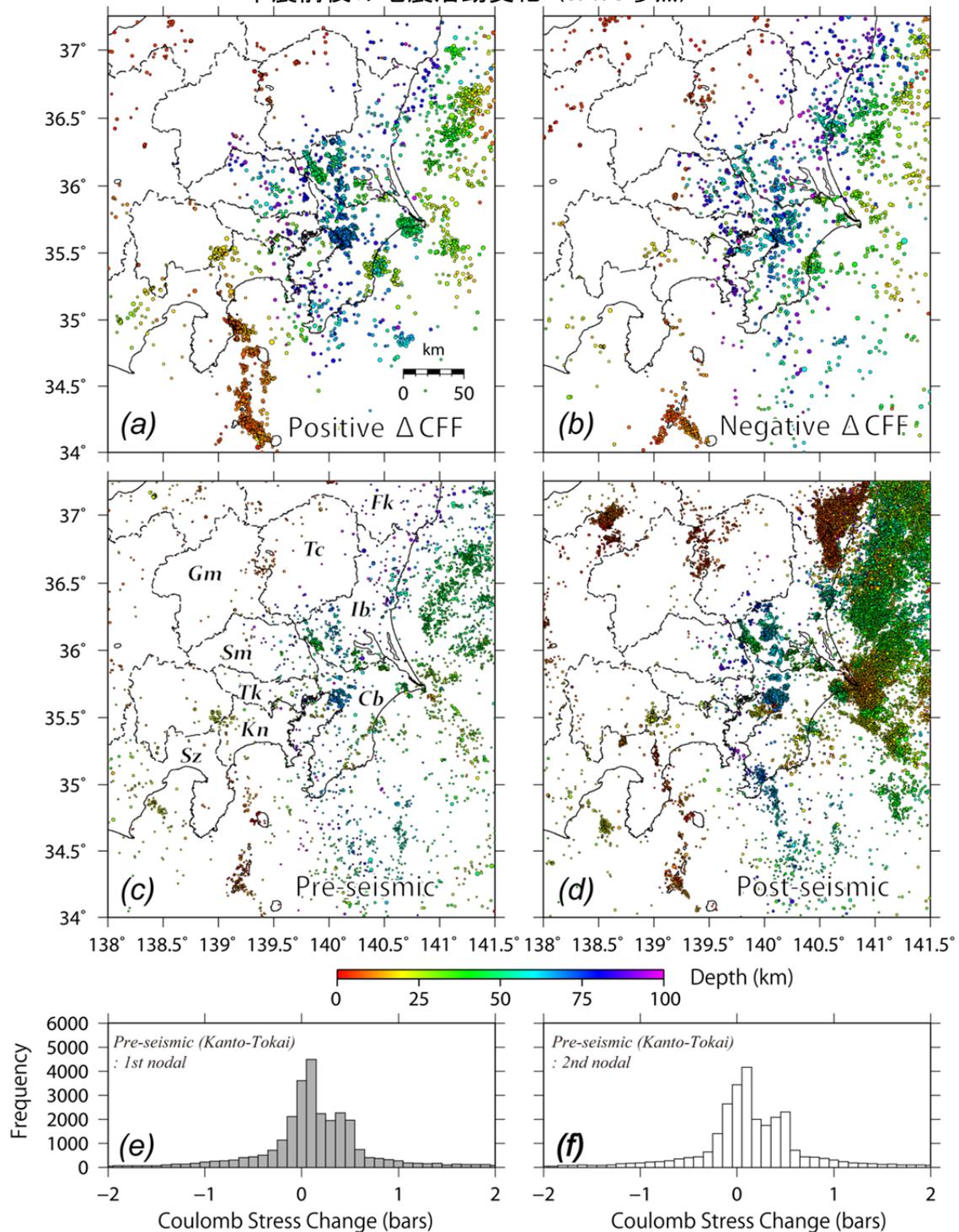


関東における2011年東北地方太平洋沖地震による静的クーロン応力変化と
本震前後の地震活動変化 (3.1.3 参照)



(a) 関東・東海地殻活動観測網によって決定された発震機構解（防災科学技術研究所による；第1節面）を受け手側の断層メカニズム解として計算した静的クーロン応力変化 (ΔCFF) が0.1bar以上増加した発震機構解の分布。色は深さを表す。(b) 0.1bar以上減少した発震機構解の分布。(c) 東北地方太平洋沖地震前（左；2010年3月1日～2011年3月10日、 $M \geq 1.5$ 、深さ100km以浅）、(d) 地震後（右；2011年3月11日～2012年2月29日、 $M \geq 1.5$ 、深さ100km以浅）の震源分布（気象庁一元化震源カタログによる）。(e) 第1節面、(f) 第2節面を受け手側の断層メカニズム解として計算した ΔCFF のヒストグラム。